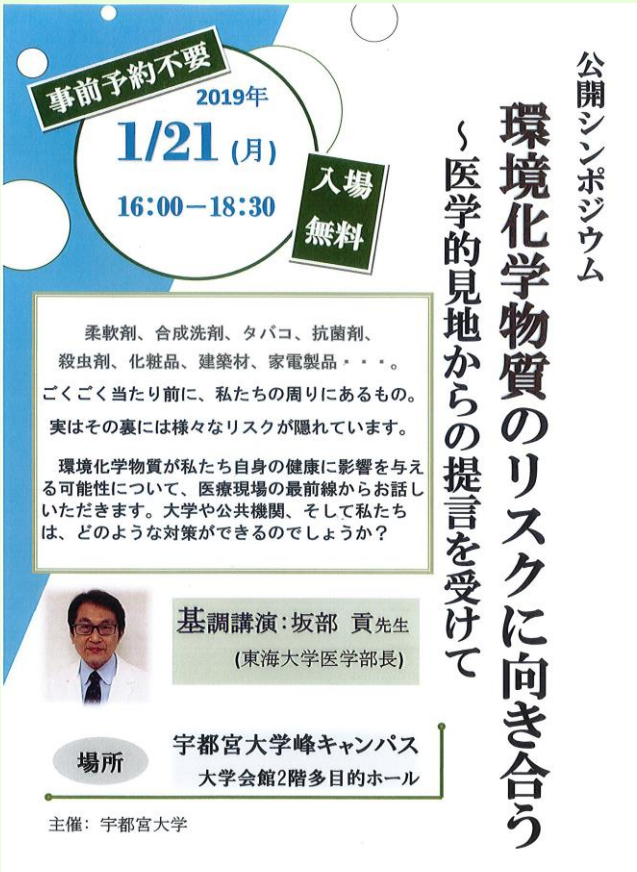
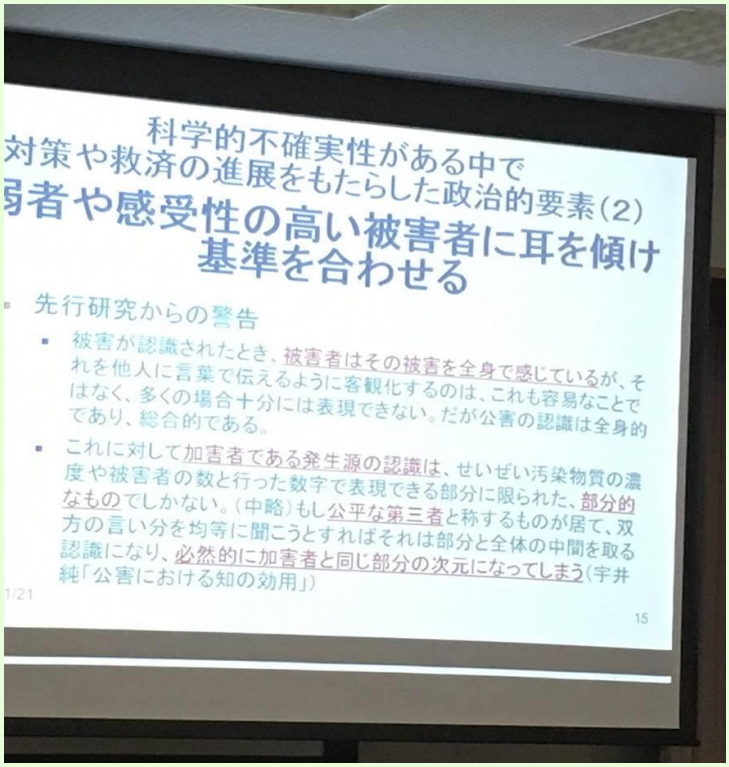
山田みやこの活動報告

平成31年1月21日(月)

宇都宮大学主催の「環境化学物質のリスクに向き合う」に参加



東海大学 坂部貢医学部長の講演
ごくごく当たり前に、私たちの周りにある化学物質の柔軟剤・合成洗剤・抗菌剤・殺虫剤・化粧品・建築材など、その裏には様々なリスクが隠れている。
その環境科学物質が、私たちの健康に影響を与える可能性が大きい。大学や行政、私たち一人ひとりにどの様な対策ができるのか医学的見地からの提言だった。
20年前、「ノニルフェノール」「ビスフェノール」の化学物質により環境化学物質のヒト胎児曝露のリスクが報告された。
自閉症・ADHD・LDと環境についても、鉛・水銀・ヒ素・PCB・トルエン等が発達途上にある子どもの脳への影響が大であるとされた。
またシックスクール症候群の中には、化学物質に曝露すると描く絵の質が攻撃的になり年齢相応の絵が描けなくなってしまうという。
一部の化学物質過敏症の発症者固有の問題ではなく全ての人々の問題として喫緊の課題であると問題提起された。国際的に合意された持続可能な開発目標(SDGs)のひとつ。「誰一人取り残さない」という理念として定着した「予防原則」を化学物質のリスク対応をしていくことが重要であるとの結果だった。
2007年本県の学校におけるシックハウス対策マニュアルが私の一般質問から作成されたが、現在の「香害」を始め、様々な問題が出てきている。
さらなる改訂が必要と痛感した。今後の重要な活動テーマの一つである。